

これまでの経過

ソーシャルワーカーの業務は、『医療ソーシャルワーカー業務指針』に明文化されているものの、個々の業務内容をどのように量的、質的に実施していくかについての指標は模索段階にあります。他職種では、クオリティ・インジケータ（QI：質指標）の作成が推進されている中でソーシャルワーカーの業務が客観的に評価されるための指標づくりは早期に作成されることが望ましいと思われました。

このような状況から、ソーシャルワーカーの業務の指標化と標準化を目指し、専門家を交えた研究会を開催し、『SWHS ソーシャルワークデータシステム』（以下データシステム）を開発しました（独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」の助成事業 2009 年度「病院ソーシャルワーカーの業務指標開発事業」、2010 年度「病院ソーシャルワーカー実績データ管理事業」）。その後診療報酬改正に伴い 2011 年に『SWHS ソーシャルワークデータシステム Ver.2』を作成しました。

2011～2013 年度には、厚生労働省科学研究費補助金を得てクオリティ・インジケータと介入必要基準の開発が研究班によって行われ、研究費でデータシステムにクオリティ・インジケータと介入必要基準も組み込まれました。（厚生労働省科学研究費補助金政策科学総合研究事業「急性期病院におけるソーシャルワーカーの実務基準と質指標（クオリティ・インジケータ,QI）の開発に関する実践研究」）

2014 年には厚生労働省科研のチームとの連携により、クオリティ・インジケータのデータシステムを組み込んだ『SWHS ソーシャルワークデータシステム Ver.3』を公開しました。

その後システムの改良や新たな作成について検討を重ね、「SWHS ソーシャルワークデータシステム」のデータ項目、地域連携の標準的なデータを組み込んだ File Maker を用いた MSW 業務用データベースが開発されており、クラウド版や MySQL 版も開発中です。詳細は MANBO リンクからご確認ください。